

平成26年度第1回成田市生涯学習推進協議会会議概要

1 開催日時 平成26年9月12日（金） 午前10時から

2 開催場所 成田市役所 6階 中会議室

3 出席者

（出席委員）林雅彦会長、門馬紘一副会長、大見川美津子委員、小川和博委員、上條京子委員、亀崎重光委員、品田等委員、軸屋美恵子委員、菅沢くみ子委員、高田英子委員、照元康委員、時田幸江委員、中村好男委員、野平浩明委員、野村豊委員、宮本真由美委員、八華歌雀委員

※欠席委員 菅野良司委員、正岡宗之委員、渡辺まり子委員

（事務局）小泉市長、関川教育長、藤崎生涯学習部長、秋山生涯学習課長、大矢生涯スポーツ課長、木川公民館長、須賀澤図書館長、木川生涯学習課副参事、醍醐生涯学習課副参事、野平生涯スポーツ課副参事、木内生涯学習課長補佐、坂本生涯スポーツ課長補佐、飯田生涯学習課主幹、出山生涯スポーツ課主幹、谷平公民館主幹、小川生涯学習課係長、添田生涯学習課係長

4 議事

- （1）第2次成田市生涯学習推進計画の進捗状況について
- （2）第2次成田市生涯スポーツマスタープランの進捗状況について
- （3）文化芸術振興に関する市民意識調査結果及び成田市文化振興マスタープラン骨子（案）について

5 会議の内容

- （1）第2次成田市生涯学習推進計画の進捗状況について
生涯学習課長、公民館長、図書館長から、それぞれ資料に基づき、平成25年度主要事業の実績等について説明。
- （2）第2次成田市生涯スポーツマスタープランの進捗状況について
生涯スポーツ課長から、資料に基づき、平成25年度主要事業の実績等について説明。
- （3）文化芸術振興に関する市民意識調査結果及び成田市文化振興マスタープラン骨子（案）について
生涯学習課長から、資料に基づき説明

《発言要旨》

議事（1）についての発言

委員：PTAで使用した場所や図書館等で感じていることについて話す。周囲から、以前

よりサービスが、きめ細かくなったとの声があり、配慮してきたことの現れと評価している。しかし、今までやってきた事業に対して、長く続いていればいるほど固定化した側面があるので、企画の段階から外の風を入れたほうが良いと思う点はいくつかある。集客数に目が行きがちだが、そこに出てどれだけ満足したかという満足度は、なかなか数値で出てこない。出席者から、いろいろな形で聞くことをしてきたが、とりあえずやっておけばという企画があるような気がする。アンケートで、はっきり出るような工夫をしてほしい。例えば、3つの評価だと必ず普通が多くなると思われるので、4つの評価にするなどアンケートの工夫と、将来参加者が増えていくのは満足しているからということにも視点を置いてほしい。人口のバランスから仕方ないが、高齢者対象の行事は、良い形でできているが、中学・高校・大学生は、他の機会があるという発想があると思っているかも知れないが、これからの担うメンバーなので考えてもらえるとありがたい。ボランティアの登録などについては、形として「はい書きましょう」というように、タイムリーに出していない気がする。行事の時に、ボランティアに登録したメンバーを使うより、身近なところに優れた人がいたりすると、そちらにお願いする傾向がある。そういうメンバーを上手にボランティア登録させないと増えない気がする。登録者を生きた形で、今後使う場所があるかどうかも含めて再確認した方が良い。

委員：生涯大学院で学んでいる。皆さん、最初に入ってきたときは、仕事をしていたため、ほとんど地域の交流がない。自分もそうだが、成田の場合には、もともと成田で生まれ育った人が少ない。地域の交流を兼ねてとか、友達を作りたい方が大変多いと思う。今のクラスは、最初は何となく入ってきた人が多く、元気がなかったが、卒業する頃は元気になって、何歳も若返って卒業できる状態である。卒業間際になると、「まだ入っていない人に、良いところだからと勧めましょう」ということが、合言葉になっている。11月に文化祭があり、今練習をしているが全員が主役である。計画に、だれもが主役となっているが、私のクラスは全員が主役で頑張っている。講演会等でも学べて楽しくやっている。

委員：市民文化祭の舞踊の祭典での感想である。3歳児から年配の方まで、幅広い年齢の方々が参加した。文団連以外の団体も参加し、交流を図り、新たな観客も増え文化の普及ができたと思う。また、書道展の授賞式にも出席したが、若い世代の方々が多数受賞されていた。

委員：生涯大学のことは、よく聞いており、是非年齢に達したら参加したいと思っている。子どもセンターで発行しているリーフレット「なりきち」に、夏休みの陶芸体験が載っているが、生涯大生と子どもセンターが協力して実施したものである。生涯学習課の提案で企画になったもので、今後もこのような協力関係が増えると嬉しいし、行事が増えると思う。質問だが、公民館の予約について、電話だと1か月前の10時から予約できるが、インターネットの場合は、いつから予約できるか。

事務局：公民館利用者の多くが、ネット環境になじみのない方のため、窓口は1か月前に予約できるが、インターネット予約は、ネット弱者の利便を図ることから1か月前の3日後の9時から可能にしている。

委員：子どもセンターで「なりきち」の編集をしているので、PRをさせていただきたい。「なりきち」は、小・中学校が土曜休業になった時、子どもたちに体験活動やイベントを知らせるということで発行したものである。表紙に載っている陶芸教室は、生涯大学院の受講生にお世話になったが、この他にも成田市に住んでいる外国人の方に料理を教えてもらった。去年はスリランカの人にカレーを、今年は中国の人に水餃子を教わった。地元のイベントを知らせるだけでなく、募集人員は少ないが体験事業も行っている。「広報なりた」と違うところは、民間の営利目的のものでも、子どもが安心して体験できるものは掲載しているので、委員の皆様も子ども向けの募集等がありましたら知らせてほしい。委員の中に、ソフトテニスを教えている方がおられるということなので、後ほど詳しく伺いたい。皆さんと繋がっていくことは、良いことなのでいろいろと声をかけていただきたい。

委員：生涯学習推進計画の目標値について、どのように見ていくかを考えていく必要があると思う。入場者が減っているのは、高齢者が元気でサークル活動等に参加している暇がないという捉え方もできる。元気であるのは、生涯スポーツの効果が出ているとも考えられるので、数値を追いかけていくことは、施設側としては大事なこともかもしれないが、数値目標の計画を立てていくというよりは、数値の中身が大事で数値の捉え方が今後の課題と言える。

委員：障がい者の関係で施設を利用させていただいている。公民館以外にも利用できる施設が多いので数値の問題はないが、残念なことは、最初は社会福祉協議会を通して、成田公民館を優先的に予約していたが、公平な予約ということからできなくなり、今は生涯学習会館を利用している。障がい者にとって、場所を変えるということは問題があり、パニックになる場合もあるので配慮があるとありがたい。

事務局：利用する側に特別な事情がある部分は、優遇ではないと個人的には思う。分け隔てなく利用してもらうことが原則となっている。

議事 (2) についての発言

委員：数年前から中学校で体育指導に携わっている。自分は、テニスのキャリアではないので基礎・基本を大事に指導している。現役の時に学校関係にいたので、生活指導も含めて、部活の指導をしていくということで、常に顧問との連携を図りながらやっている。もう一つ、広報に載っていたスポーツリーダーバンクに登録させていただき、POPラン等にボランティアとして参加した。お願いだが、中学校の指導に

ついて、今、中学校の先生は忙しいというのが実感である。部活を見たいが忙しくてできない。部活をしたい子どもは、希望する部活に入れないから部活のある学校に越境する傾向があり、部活のない中学校は、活気がなくなるように見受けられた。市の問題ということで、できるだけ地区の学校に行くようにしていると聞いているが、外部指導者を取り入れて活性化して欲しいと思う。

委員：成田市のスポーツ少年団の副本部長をしている。(日本スポーツ少年団の歴史について説明。) 目的は、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを感じてもらい、スポーツを通して青少年の心と体を育てる組織を地域社会の方々が作ること。現在は、全国で 35,000 団体、78 万人のスポーツ団に成長している。目標団員数は 100 万人。活動内容は、スポーツ活動、野外活動、学習活動が主体となり、その他文化活動、ボランティア活動がある。これにより、青少年の人間づくり、体力づくりを目的としている。成田市のスポーツ少年団は、37 団体 1,036 名が活動している。団体には、認定員を置かなくてはならないという規約があるが、平成 27 年度からは、複数の認定員を置くことが義務化されたことから、認定員育成講座を開設し指導者の育成にも携わっている。また、成田市のスポーツ少年団員 21 名が 2 泊 3 日の合宿生活での講義を受講し、ジュニアリーダー資格を認定された。ジュニアリーダー資格者が、更にシニアリーダーの資格を取得し、将来のスポーツリーダーに成長し、活躍することを期待している。ボランティア等の意識は、年少時期に身につけることが大事と考え、成田市のスポーツ少年団は、スポーツをやりながら、携わったスポーツのボランティアができるよう育成を図っている。

委員：今年度は、大きなスポーツ大会の行事が目白押しである。全体の感想だが、5 月にツーデーマーチ、千葉県東部五市体育大会が開催された。五市大会は、銚子・旭・匝瑳・成田・香取市が順番で会場市になる。今年度は、成田市を会場に開催し、成田市が 3 年連続で優勝した。8 月に全国高校総合体育大会、10 月にスポーツフェスティバル、11 月にサンゴ世界選手権大会、POP ラン大会と、大きな大会が 6 つある。全て、参加者が 1,000 人以上を数える大きな大会である。これだけの大きな大会を実施したり、誘致を承認してくれる市長・教育長をはじめ、市当局のスポーツに対する理解があると、体育協会としても感謝している。反面、これらの大会の事務局を引き受ける生涯スポーツ課は、非常に大変だと考えている。市民の健康増進を図るのが、生涯スポーツ課の大きな業務の一つと考えるが、これを扱う職員の健康を害しては話にならないので、健康に注意してもらいたい。意見としては、スポーツフェスティバルについて、平成 24 年度からスポーツフェスティバルとし、以前の市民運動会の参加者が延べ 7,000 人、スポーツフェスティバルになって 2 年目の昨年度の参加者が延べ 2,000 人ということで、このギャップをいろいろな人が、いろいろな見方をする。先ほど、生涯スポーツマスタープランの数値目標が出ていたが、成田市独自で行うスポーツ大会の適正な参加人数は、どうしたら良いかということを考えなければいけないと思う。参加人数だけが問題ではないと思う。適正な

参加人数を、数値目標として挙げておく必要があるような気がする。

委員：中台体育館を、10年以上レクリエーション協会のバウンドテニスで使用している。仕切りのネットを細かい網目に交換してもらったが、体育館利用者のマナーもあると思うが、ネットにぶら下がることにより、目が大きくなってしまっている。ネットの状況を確認して、交換してもらいたい。

事務局：状況を指定管理者のスポーツ振興財団に確認する。

委員：学校開放の競技で、いろいろな指導者がお世話になっていると思うが、団体・個人の要望や不具合が出ると考えられるので、年1回ぐらい聞いてくれることを定例化してくれると助かる。私は卓球をやっているが、施設面等でいろいろな話が伝わってくるので、他の競技の方もそうじゃないかと思う。

事務局：学校体育館のハード面に関しては、教育総務部と打ち合せをして考えていきたい。

議事（3）についての発言

委員：文化振興マスタープランの説明の中に、本計画の期間が10年とあるが、今現在での出来上がりの予定はいつか。市全体的な他の計画、例えば成田市総合計画は平成27年度が区切りとなり、平成28年度から新規の策定が始まるということで、整合性を考えて、どのようにいつごろ策定を進めていくのか。

事務局：本日提案したものは、マスタープランの骨子（案）ということで、10月からパブリックコメントを行った後、文化振興マスタープランの策定委員会での議論を経て、骨子を決定し、より良いものに仕上げていきたい。その後、更にマスタープランそのものの具体案を検討していただく。そういった中で、次期成田市総合計画が平成28年度からスタートするので、整合性を図りながら検討するので、平成27年度以降になると思われるが、明確な時期を今段階では、はっきりと申し上げられない状況である。

委員：理想的には、整合性を含めると平成28年度が新規となるので、その辺りでできると良い形になると思うし、次の見直しもサイクルが合うので、うまく調整してもらいたい。

事務局：次期の成田市総合計画等と足並みを揃えて進めて行きたいので平成28年度頃を考えたい。今後の策定委員会の議論の中で、今回の意見を参考にさせていただきたいと思う。

委員：伝統芸能の北羽鳥香取神社の獅子舞の保存会に属しており、非常に嬉しいと考えて

いる。会員も高齢化が進み、厳しい状況だということを認識している。是非良いものを作ってもらいたい。

6 傍聴
なし